

給食だより



令和6年
5月号

(毎月19日は食育の日)

●家族一緒に読みましょう

氷見市立瀬浦小学校

学校での生活が始まって1か月が過ぎ、さわやかで過ごしやすい季節になりました。1年生も給食に少しずつ慣れてきたようで、「今日の給食、なあに？」と元気に声をかけてくれます。今月も給食を楽しみにしてくれているようです。

この時期は、4月からの緊張がほぐれ、心や体に疲れが出てくることがあります。朝、なかなか起きられなかったり、日中ボーッとしたり、食欲がなくなったりなど、気になる症状はありませんか？そんな時は、生活リズムを見直してみましょう。

生活リズムを整えるためのポイント



<p>起きたら、朝日を浴びる</p>	<p>朝食をよくかんで食べる</p>	<p>昼間は外で体を動かす</p>	<p>食事は決まった時間に食べる</p>	<p>早めに布団に入る</p>
<p>朝食後に、トイレへ行く習慣をつけましょう。</p>			<p>寝る前に、ゲーム機やスマホを見るのはやめましょう。</p>	

学校給食の食事内容について

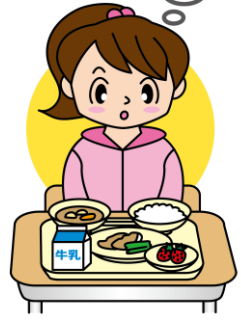
学校給食の献立は、文部科学省が定める「学校給食摂取基準」に基づき、作成しています。1日に必要な栄養量の1/3程度を基本に、不足しがちな栄養素は多めにとれるよう考慮しており、残さず食べることで、必要な栄養をしっかりとることができます。

しかし、苦手な食べ物があったり、食べられる量が少なかったり、給食を食べることに不安を感じている人は、無理をしなくて大丈夫です。成長するにつれて、だんだんと食べられるようになりますので、食べる量を一口ずつ増やしながら、徐々に慣れていきましょう。

給食は残さず食べなくちゃいけないの？

★協力して準備をし、食べる時間を長くとれるようにすることが大切です。

★楽しい雰囲気だと、よりおいしく感じます。



「五節句(五節供)」と行事食について知ろう!

5月5日は、国民の祝日「こどもの日」ですが、男の子の健やかな成長を祝う「端午の節句」でもあります。節句と名のつく行事は他に、1月7日の「人日の節句」、3月3日の「上巳の節句」、7月7日の「七夕の節句」、9月9日の「重陽の節句」があり、まとめて「五節句(五節供)」と呼ばれます。



こどもの日は「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」日として定められており、本来は、端午の節句とは別の行事です。

中国から伝わった風習が日本独自の行事に変化したもので、行事食には、健康で幸せに暮らせるようにという願いが込められています。それぞれの節句には、邪気(病気や災難を起こす悪い気)を払うとされる季節の植物が用いられているのも特徴です。

1/7 人日の節句 (七草の節句)

7種類の若菜を入れた「七草がゆ」を食べ、一年の無病息災を願います。若菜は、セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロで、春の七草ともいいます。

3/3 上巳の節句 (桃の節句)

「ひな祭り」の名で親しまれ、桃の花やひな人形を飾り、女の子の健やかな成長を祝います。行事食には、「ちらしずし」「はまぐりのうしお汁」「ひなもち」等があります。

5/5 端午の節句 (菖蒲の節句)

かぶとや武者人形、こいのぼりを飾り、「ちまき」や「かしわもち」を食べ、男の子の健やかな成長を祝います。箸の強い菖蒲を入れたお風呂につかり、厄を払う風習もあります。

7/7 七夕の節句 (笹の節句)

願い事を書いた短冊を笹竹につるし、技芸上達、豊作等を願う「星祭り」が行われます。行事食として「そうめん」が食べられていますが、夜空に浮かぶ天の川や、機織りに使う糸に見立てているなど、いろいろな由来があります。

9/9 重陽の節句 (菊の節句)

菊の強い香りで邪気を払い、長寿を願います。現代では、あまりなじみがありませんが、江戸時代には五節句を締めくくる行事として、菊の花見をするなど、一般の人びとの間でも盛大に行われていました。